

予習重視の授業について

教育心理・佐藤公代

<問題と目的>

今回は予習重視の授業に視点を当てて行ってみる。

仮説は次の通りである。

- (1) 難しい本をテキストにしながらも食いついて最後までやり遂げるだろう。
- (2) レポーターとして責任を果たすだろう。

<方法>

- 1) 期日：2008年7月14日（月）に調査した。
- 2) 対象者：1回生、10人
- 3) 手続き：自作のアンケートで無記名により調査し分析した。

<結果と考察>

アンケートにそって分析結果を述べる。

(1) 予習は「非常に難しかった」20%、「難しかった」80%で全員難しいと回答している。「非常に難しかった」理由は、「文章の内容がわかりにくかったので時間もかかり読みづらかった」である。「難しかった」理由は、「言葉が難しい」「初めて知る専門的な内容が多く理解するのに時間がかかった」「日本語の理解不足」「専門知識をもっていないので時々わからないところがあったから」「聞いたことのないような言葉が多かったから」「書いてある内容を理解するのが難しい」「文章が難しかった」「今まで聞いたことのない単語がたくさんでてきたから」である。

(2) 興味があった章は、「社会心理学」40%で、理由は、「対人関係に興味があ

ったため」「一番人間の行動に興味を持っていたから」「自分の身近なところで考えられる心理学で納得できる部分が多かった」「社会心理学について知りたいと思っていたから」である。「臨床心理学」30%、でその理由は、「もともと興味があったから」「臨床心理について前から興味があったから」「将来の仕事に一番役立つ学問だから」である。「発達心理学」10%で、その理由は、「小さい頃の経験が影響することに驚いたから」である。「感覚・知覚」10%で、その理由は、「錯覚とかが面白かったから」である。「記憶・言語・思考」10%で、その理由は、「書いてある内容がこれから使えそうだから」である。

(3) 役だったのは「臨床心理学」60%で、その理由は、「臨床心理学をやりたいと思っていたので、具体的な心理的援助などが知れて良かった」「カウンセラーに最も関係するところだから」「他の心理学の授業の内容にも生かすことができたから」「統合失調症など色々な症状についてわかったから」「将来の仕事に一番役立つ学問だから」「教育臨床心理学でも同じようなことをやってよりわかりやすくなったから」である。「社会心理学」30%で、その理由は、「社会や対人環境と深く関係するところだった」「対人関係のものが多かったから」「人と関わることにおいて役に立つことが書いてあった」である。「記憶・思考・言語」10%で、その理由は、「覚えるときに役立つ」である。

(4) 質問に対して先生の答えは「理解できた」40%で、その理由は、「例をあげてくれた」「質問したところを毎時間答えて下さったから」「具体例を出してくれたのでわかりやすかったから」「丁寧に答え

てくれたから」である。「どちらでもない」50%で、その理由は、「説明が答えと結びつかない場面もありました」「わかったのもあったけどわからなかったのもあったから」「たまに理解しにくいときがあった」「わかるどころとわからないところがあった」「自分がわかっているところまでしか答えてもらえないことが何回かあったから」である。「理解できない」10%である。

(5) 手作りお菓子、飲み物を出してもらって「非常に嬉しい」90%で、その理由は、「授業が苦でなくなるし、おいしかったので楽しみでした」「毎回違うケーキで、いつもおいしくいただいていた」「とっても美味しかったです。幸せでした。有り難うございました」「おいしかったから」「おいしかった」「とてもおいしかったです」「難しい内容も少しやわらぐ気がしたから」である。「嬉しい」10%で、その理由は、「ケーキはうれしかったけど、レーズンで2回食べられなかったから」である。

(6) レポーターになって「良かった」60%で、その理由は、「自分で積極的に予習ができ、より内容をつかむ努力ができたから」「レポーターになることによって深く理解できたから」「その章についてより理解できた」「深く知れたと思うから」普段の予習よりもより深く勉強することができた」「内容は難しかったけれど人に説明するために何度も繰り返し学習できた」である。「どちらでもない」40%で、その理由は、「書いてあることが難しかった」「レポーターの仕方がよくわからなくて戸惑ってしまったから」「調べ不足」である。

(7) 心理学の概要が「理解できた」80%で、その理由は、「全体的に幅広く学べたので良かった」「どの分野も学習できて、それぞれ興味をもてた」「色々な種類の心理学が知れたから」「幅広い心理学を学べたから」「広い範囲を学習できたから」「基本的なことについて多く書いてあった」「心理学全般を学ぶことができたから」「難しく理解しにくい部分もたくさんあ

ったけれど章ごとにどのような内容を学ぶのかは大体わかった」である。「どちらでもない」20%で、その理由は、「書いてあることが難しかった」である。

(8) 自由記述は60%の学生が以下の通り書いている。「ケーキおいしかったです。ごちそうさまでした」「前期に文献から色々教えていただき有り難うございました」「お菓子とか作ってもらえてうれしかったです。この本は難しくて大変でした。有り難うございました」「本当に内容は難しく理解するのも時間がかかったけれど興味深いものが多く、面白いと感じました。特に興味があるものはさらに学習していきたいです。あとケーキは楽しみでした」「ケーキごちそうさまでした。あんまりしゃべらない生徒達でごめんなさい」「色々お話しして下さって有り難うございました。先生には気苦労をおかけしました。4ヶ月間有り難うございました」

以上から仮説(1)(2)は支持された。

毎回予習をやって質問、意見、感想、批判などを紙に書いてきてもらい、それに対して答えてから、レポーターにレポートしてもらう形式をとった。学生の感想からもわかるように、難しい本にもかかわらず、諦めずに最後までやれたことは、これからの自信につながり、各自、自主的・創造的に学んでいくことだろう。小さいゼミの時にはお菓子を作ってきて学生に出している理由は、できるだけぎっくばらんな雰囲気でも本音で話し合えることを作り出したためであって、別に遊んでいるわけではない。最近の学生は、メールで話すことはできても対面式では苦手と言われている。それを克服するためにも本授業は無駄ではなかったと思う。

心理学の授業は大学で初めて学ぶので、概観を知る意味で心理学入門をやらなければならない。その位置づけでやっているのであるが、学生の興味の持ち方が「社会心理学」「臨床心理学」に偏っているのは、世相を反映しているのであろう。巨視的な視点から微視的な視点に、また、その逆に柔軟に学習していくことを望む。